

市立海の博物館 建物の魅力について

今回は海の博物館のデザインや機能について紹介します。



市立海の博物館 ☎(32)6006 教育委員会生涯学習課 ☎(25)1268



棟揚げ式の様子

内藤さんは、1981年（昭和56年）に内藤廣建築設計事務所を設立し、海の博物館の建築設計で1993年（平成5年）に日本建築学会賞を受賞したほか、吉田五十八賞や公共建築100選など数々の賞を受賞し、現在は東京大学名誉教授に就任されています。



内藤 廣 氏

海の博物館の

設計について

海の博物館は1992年（平成4年）に浦村町に移転し、開館しました。その時設計にあたったのが、内藤さんです。

洗練されたデザイン

海の博物館は7年にわたって収蔵庫、研究棟、展示棟と順番に建設されました。

土地の伝統的な風景を生かしていくことを軸に、伊勢志摩地方の漁村集落をイメージしてデザインされており、瓦屋根や石垣による風土的なデザインとなっています。

建物は8棟ありますが、平面的に分散して配置し、資料の円滑な移動と入館者が疲れずに観覧できることを配慮して造られています。また、展示棟を木造としたこと、自然

収蔵庫



研究棟

展示棟 A

展示棟 B

立面図

風景を十分に取り入れたこと、ゆつたりとした庭園部を設けたことにより、あたたかみを感じられる設計となっています。

印象的なアーチ形の天井

展示棟には、船を逆さにしたような集成材によるアーチ形の天井があります。博物館の一番の特徴であり、印象に残る建築的な見どころの一つです。

また、展示を第一に考えた設計で棟内には柱や壁がなく、自由かつダイナミックな展示を可能としています。



環境に応答した機能

博物館で収蔵している文化財や資料は収蔵物によって要求される湿度が異なるため、収蔵庫ごとに造りが違います。

例えば、木造船は乾燥しているのと割れてしまったため、湿度が必要で。そのため、船の収蔵庫の床は、コンクリートではなく、土間となっています。土間は、適宜湿気を吸ったり吐いたりするため、理想的な湿度を安定して保つことができます。

一方で、天然素材でできた網や衣服、古文書の部屋は、内壁が板張りで2重のコンクリートシェルターを設けています。梅雨時などは外部からの湿気を含んで板張りが膨らみ、密閉性を増すことでカビの発生を防いでいます。

いずれの収蔵庫も空調などの機械を使用せず、収蔵庫と環境が一体となった建物づくりとなっています。



国重要文化財収蔵庫

アート作品を

取り入れた建物

展示棟や収蔵庫の扉、池に配置された舟形の彫刻など芸術家の作品が取り入れられています。

特に、扉はシンブルな造りの建物に対してインパクトを与えており、博物館全体を印象付けています。



最近の新たな活用事例

2015年開催の国連総会において2017年を「持続可能な観光国際年」とする旨が決議されたことを踏まえ、昨年10月に三重県で国際観光シンポジウムが開催されました。市立海の博物館はその歓迎レセプション会場として受け入れを行い、海外から約60人のかたが来館し、博物館の建物や文化財などの魅力に触れていただきました。



レセプションの様子

第2回鳥羽美術展

～リンダ・デニス 三重の海に触れて～

とき 2月3日(土)～5月12日(土)

内容 昨年度「鳥羽美術展」で漁網を使ったアート展を開催した女子美術大学のリンダ・デニスさんが、鳥羽の漁業が持つ魅力を漁網によるアート作品を通じて紹介します。

問合せ先 鳥羽市観光協会 ☎(25)3019



旅するマーケット海音 umine

とき 3月18日(日)

午前11時～午後4時

おしゃれなカフェなどが約40店舗集う屋外での食のイベントを開催します。



旧鳥羽小学校周辺で開催されたkomichi market

1～3月のうみはく情報

今年も市立海の博物館では、漁網や海藻を使ったアートから食のイベントまで「うみはくならでは」の取り組みを予定しています。みなさん、ぜひお越しください。

野田三千代作品展

「海を彩る海藻の森～Seaweeds Art」

とき 2月2日(金)～4月1日(日)

内容 海藻の形のおもしろさと色彩の豊かさに着目し、アートの域まで仕上げたのが海藻デザイン研究所の野田三千代さんです。身近な海藻から作られるアート作品をお楽しみください。



ワークショップ 「海の森を学ぶ～海藻おしば作り～」

野田さんを講師に招き、ワークショップを開催します。

とき 3月24日(土) 午後1時～3時

参加費 500円(入館料込み)

申込方法 市立海の博物館へ電話で申し込んでください。